



音楽で狩猟や大自然を表すときにホルンは必ず登場します。勇壮さと全体を包み込むような包容力のある音色が魅力です。そして何年演奏していても、こうすればうまくいくという新しい発見があります。その発見で自分が成長できたと思った時はすごくうれしいです。

### ホルンの奥深い魅力

演奏家は作曲家が描いた世界を音にして実演する「職人」みたいなものだからベストを尽くして演奏します

音楽を聞くのが大好きで始めたホルンですが、職業だと嫌いな曲も難曲も本気で取り組み、完璧に演奏しなければなりません。演奏家は、作曲家が描いた世界を音にして実演する「職人」みたいなもの。だからベストを尽くして演奏します。苦勞して音にすると喜んでもらって、拍手ももらえる仕事って本当に幸せだなと思います。

### 理想を高く持つから

くじけそうになったり、自分が迷惑を掛けているのではないかと思ったりすることもありました。演奏中、緊張もします。緊張しない人なんてどんな名手でもない人だと思えます。世界一うまい人でも、もっとうまくやりたいと思っただけ練習しています。理想が高くないと、成長はそこで止まってしまうんです。今回、公開レッスンでホルンを演奏している中学生にも伝えましたが、ホルンはとても難しくても時間のかかる楽器です。上手になるには、紹介した基礎練習をこつこつと続けることが大切です。

音楽を聞くのが大好きで始めたホルンですが、職業だと嫌いな曲も難曲も本気で取り組み、完璧に演奏しなければなりません。演奏家は、作曲家が描いた世界を音にして実演する「職人」みたいなもの。だからベストを尽くして演奏します。苦勞して音にすると喜んでもらって、拍手ももらえる仕事って本当に幸せだなと思います。

### 菊陽町への思い

昔は、原水駅の北側は森で、そこでよくホルンを吹いていました。気分良かったですよ。音が遠くに広がる感じが好きでした。思い出の場所ですね。今は、僕が町を出たころと比べて特に光の森辺りが発展していて非常に驚いています。美しい自然もありますし、水も野菜もおいしいですね。あと人が優しいところも魅力だと思います。いつ帰っても町の人は優しく接してくれますね。

## ホルン公開レッスン interview



菊陽中学校2年生 藤本みなみさん

中学校の入学式で先輩たちが演奏している姿を見て格好良いなと思い、吹奏楽部に入部しました。正しい音階を出すのは難しいですが、合奏で他の楽器と音が重なってきれいなハーモニーになると楽しいです。公開レッスンでは正しい姿勢や演奏方法を学ぶことができました。音楽を楽しみながら、曲に合った音を出せるようにしっかり練習していきたいです。



武蔵ヶ丘中学校3年生 山本絢香さん

ホルンを吹いていて、きれいな音や今まで吹けなかった音が出たときはうれしいです。公開レッスンでは、和田さんの出す音がとても深くてきれいだったので驚きました。プロのホルン奏者に教えてもらう機会はあまりないので、ホルン特有の演奏のこつなども分かり、とても勉強になりました。基礎練習の仕方など教わったことに取り組み、夏のコンクールに向けてこれからも頑張ります。

# 和田博史

Hirofumi Wada

Profile わだ・ひろふみ

1964年11月23日生まれ。菊陽北小学校・菊陽中学校・県立大津高校出身。1989年東京芸術大学音楽学部卒業。現在東京都交響楽団ホルン奏者。



演奏家は作曲家が描いた世界を音にして実演する「職人」みたいなものだからベストを尽くして演奏します

## 特集 ここ菊陽が出发点、夢の力。

フェイスブックで同級生とつながったことをきっかけに、3月1日、菊陽町図書館ホールで菊陽中学校と武蔵ヶ丘中学校の吹奏楽部の生徒などを対象にホルンの公開レッスンを行ったプロホルン奏者、和田博史さん。翌日、同ホールで開催された「菊陽吹奏楽団第30回記念定期演奏会」にもゲスト出演し、ホルンの深くて優しい音色を会場中に響かせました。今回、プロを目指したいきさつやホルンの魅力、町への思いについて語っていただきました。

### 恩師との出会いが今の自分につながっている

菊陽北小学校では、音楽の成績は5段階中ずっと2で、リコーダーが吹けなくて残されて泣きながら帰った苦い記憶があります。しかし、2つ上の打楽器をやっていた姉から何度も誘われたので菊陽中学校では吹奏楽部に入りました。トランペットは人数が足りていて、トロンボーンは同級生より手が短かったため、希望者のいなかったホルンになりました。

志賀孝子先生のもとで、音階など基礎的なことをしっかり教えてもらいました。それが今につながっているのだと思います。中学2年生の時に志賀先生に「とても良い音が出ている。びっくりした」と言われて、その気になってしまいました。先生にはとても感謝しています。

### 本当にホルンを演奏することが好きだった

中学2年生の時に「マーラーの交響曲1番 巨人」のレコードを買いました。すると吹奏楽ではあまり活躍しないホルンが大活躍するんですね。「こういう

演奏をする仕事があるんだ。オーケストラの団員になりたい」と思いました。本当にホルンを演奏することが好きだったので、もちろん狭き門なので、最初は両親に反対されましたが、教員免許も必ず取るという約束で芸大への進学を許してくれました。

### 演奏が生きがいに

東京都交響楽団では、スポットを浴びる1番ホルンではなく2番ホルンを担当していて、主役である1番ホルンをいかにすてきに見えるか、言わば名脇役ですね。自分の力で1番ホルンが輝いて見えたときはすごくうれいんです。うまくアシストできたときにこれが自分の生きがいかなと思います。